

CentreCOM® 8216FXL/SMSC リリースノート

この度は、CentreCOM 8216FXL/SMSCをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。


なお、本製品付属のハードウェア設置マニュアルは、「CentreCOM 8216FXL/SC」のものとなっています。製品名を置き換えてお読みください。CentreCOM 8216FXL/SC と異なる点については本書に記載してあります。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.4J

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン2.5.1Jから2.5.4Jへのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 トラップの有効/無効の切り替え

 [AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル] /
[5 システム設定]

SNMP認証トラップおよびポートのリンクアップ/リンクダウントラップを生成する/しないを設定できるようになりました。デフォルトは、SNMP認証トラップを生成しないように設定され、また、ポートのリンクアップ/ダウントラップを生成するように設定されています。


メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] に、次のメニューオプションが追加されました。
[SNMP parameters]->[Authenticate Failure Trap]/[LinkUpDownTrap Enable Ports]

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン2.5.1Jから2.5.4Jへのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 エージングタイムについて

 [AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル]2-34ページ

エージングタイムとして設定できる最大値が、999(秒)から412(秒)に変更になりました。ソフトウェアバージョン2.5.1J以前で413(秒)以上に設定していた場合は、ソフトウェアのバージョンアップ後、エージングタイムが自動的に412(秒)に設定されます。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン2.5.1Jから2.5.4Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 4.1 ポートセキュリティーのSecureモード時、セキュリティー対象外のポートに登録されているスタティックMACアドレスが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.2 存在しないホストに対して、MACアドレス指定でPingを実行すると、RARPパケット(ブロードキャストパケット)が約15秒間送信され続けることがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 マルチプルVLANモード時に、すでに学習済みのMACアドレスをスタティックMACアドレスとして登録しても、エージング機能により自動的に消去されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 ICMP Redirectメッセージの受信により、本製品宛の通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 タグ付きポートにスタティックMACアドレスを登録すると、そのタグ付きポートから送られるパケットにタグが付与されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 IGMPスヌーピング有効時に、本製品に存在しないVLAN IDを持つIGMP Queryメッセージを受信すると、そのグループがMACアドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。
- 4.7 RRPスヌーピング設定時、マスタールーターとスレーブの切り替えを検知し、登録されていたMACアドレステーブルを消去した後、通信のタイミングによっては、切り替え前のマスターからのパケットを受信してMACアドレスの登録を行ってしまうため、新しいマスターに正しく切り替わらないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 BPDU内のMessage Ageが” 0x001a” ずつ増加するのを、” 0x0100” (1秒) ずつ増加するように修正しました。
- 4.9 ポートランキング接続時、トランクグループ2(ポート9~16)に属するポートのリンクアップ、ダウンを繰り返すと、通信速度が落ちることがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 ポートセキュリティーのSecureモード動作時、メニューから新規VLANの作成、ポートの追加を行うと、追加したポートに登録されていたMACアドレスだけでなく、その他の一部のMACアドレスの所属ポートも変更されてしまうことがありましたが、これを修正しました。

- 4.11 マルチプルVLANモード時、クライアントVLANに属するポートから、本製品と同じMACアドレスを送信元MACアドレスとするパケットを受信すると、本製品のMACアドレスがエージング機能により消去されてしまい、本製品宛の通信が不可能になってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.12 マルチプルVLANモードで連続稼働時間が497日を超えると、MACアドレスが登録できなくなり、本製品宛通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 マルチプルVLANモード時、ポートセキュリティのセキュリティ対象外のポートにスタティックMACアドレスが登録されている状態で、AutomaticモードからSecureモードに変更すると、対象外のポートにすでに登録されていたスタティックMACアドレスがエージング機能により削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.14 VLAN所属ポートのタグ付き/タグなし設定が、本製品にただちに反映されるように修正しました。
- 4.15 ポートセキュリティのセキュリティ対象外のポートに自動学習によってMACアドレスが登録されている状態で、AutomaticモードからSecureモードに変更すると、該当のMACアドレスがセキュリティ対象外のスタティックMACアドレスとして登録される場合がありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン2.5.4Jには、以下の制限事項があります。

5.1 ポートセキュリティについて

 **参照** [AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル]2-46ページ

セキュリティモード時、未登録のMACアドレスを持つパケットを受信し続けていると、Pingなどの本製品宛の通信ができなくなることがあります。

5.2 DHCPクライアント機能について

 **参照** [AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル]2-42ページ

DHCPクライアント機能使用時に、DHCPサーバーがネットワークから切り離されているなどで応答がないと、以下のような現象が発生します。

- Renewal Time Value(T1 Timer)の時間が経過するとDHCP requestメッセージが送信されますが、DHCPサーバーから応答がなかった場合、DHCP requestメッセージが再送されません。
- リース時間経過後にDHCP releaseメッセージが送信されず、IPパラメーターが解放されません。また、この状態で本製品を再起動した場合、DHCPサーバーからIPアドレスが取得できないと、ARPパケットに不正なIPアドレスをセットして送信します。

6 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26 ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。

このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、v ページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。


「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：

<http://www.allied-teselis.co.jp/support/list/switch/8216fxlsmc/manual.html>

7 オペレーションマニュアルの補足・誤記訂正

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」の補足と誤記訂正です。


7.1 ポートミラーリングのポート設定について

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-72ページ

ポートミラーリングのソースポートとミラーポートは、次の2グループの同一グループ内で指定してください。


- ポート 1～8
- ポート 9～16

7.2 MAC テーブルの消去について


 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-124ページ


ダイナミックに学習した MAC アドレスの登録をすべて消去する [Clear dynamic MAC table] オプションについて、MAC アドレステーブルに MAC アドレスが 4,000 個以上登録されているような場合は、このオプションを 2 回実行するようにしてください。一度の実行ではすべての MAC アドレスが消去されない場合があります。

7.3 最大トランクグループ数について


 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-64ページ

最大トランクグループ数を示す表において、1000M [拡張モジュール] の数に誤りがありません。以下のとおり訂正してお詫びいたします。

 [2] (2グループ)

 [1] (1グループ)

7.4 マルチプル VLAN モードとポートセキュリティの併用について

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-109ページ

マルチプル VLAN モードとポートセキュリティを併用した場合、1 つの Uplink VLAN Group (UV と CV のグループ) 内に同一の MAC アドレスを複数登録することはできません。

7.5 イングレスフィルター設定について

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、[Virtual LANs/QoS] メニューに、各ポートでイングレスフィルターの有効・無効を設定する [Ingress Filter configuration] メニューオプションが追加されました。以下に設定手順を示します。

- 1 [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] -> [Ingress Filter configuration] とすすみます。
- 2 「Ingress Filter configuration」画面からポート番号を選択し、「Ingress Filter Menu」画面を表示します。次の画面は「ポート 1」を選択した場合です。



Enable Ingress Filter/Disable Ingress Filter


イングレスフィルターの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable Ingress Filter です(ソフトウェアバージョン 2.4.2J 以前は常に Enabled)。


Enable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみパケットを受け入れ、それ以外は破棄します。


Disable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

 本製品で IGMP スヌーピング機能によるマルチキャストグループの登録を行い、かつ、本製品に IGMP メッセージを送信しないマルチキャストパケット送信専用サーバーなどを接続した環境の場合、サーバーの接続ポートを Disable Ingress Filter に設定することにより、サーバーから本製品に登録されたマルチキャストグループ宛のフラッドが可能になります。


 マルチプル VLAN モード時はこのメニューオプションが表示されません。イングレスフィルターはデフォルトの Enabled で動作します。

7.6 Fan/Over-Temperature トラップについて

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-45ページ

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、Fan トラップ (ファンの異常検出時に発行) と、Over-Temperature トラップ (システム内の温度異常検出時に発行) を、システムの起動後 2 回目以降の異常発生時 (一度通常状態に復旧した後、再度異常が発生した場合) にも送信するよう機能拡張しました。

7.7 Xmodem によるソフトウェアのダウンロードについて

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-22ページ

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、[Administration] メニューから、Xmodem によるソフトウェアのダウンロードを行う [XModem software update to this system] メニューオプションが削除されましたので、ご了承ください。

Xmodem を使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Boot メニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または [Reset and restart the system] オプションを選択して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```

BOOT VerX.X

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
```

- 3 Boot メニュー (ATI Diagnostics) が表示されたら、「->」プロンプトに続けて を入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。
- 4 リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```

The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
cccc
```

- 5 コンピューター (コンソール) から、ファイルを転送します。プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します (ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

- 6 ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。


```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

- 7 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、**[Enter]**キーを押します。
- 8 メインメニューが表示されます。

8 本製品の仕様

本製品は、シングルモードファイバー対応の100BASE-FXポートを16ポート装備しています。マルチモードファイバー対応のCentreCOM 8216FXL/SCと異なる仕様、および本製品の機器仕様について説明します。

8.1 ケーブル仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」1-4, 3-4, 3-11 ページ

ケーブルはシングルモードの光ファイバーケーブルで、コア/クラッド径が9.5/125 μ mのものを使用してください。最大ケーブル長は、通信モードがFull duplexの場合は15km、Half duplexの場合は412mとなります。

適用ファイバー	9.5/125 μ mシングルモードファイバー*
伝送距離	0m~15km
伝送損失	0.5dB/km以下

※ ITU-T G.652 適用ファイバー

8.2 コネクタ仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」3-11 ページ

100BASE-FX インターフェース

2連 SC コネクタを使用しています。

項目	100BASE-FXインターフェース
波長	1310nm
送信光パワー	-15.0dBm~-8.0dBm
受光感度	-28.0dBm以下

8.3 機器仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」 3-12 ページ

電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90V~255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	4.0A (AC100V-120V)
平均消費電力 (拡張モジュール未装着時)	60W (最大64W)
平均発熱量 (拡張モジュール未装着時)	52kcal/h (最大55kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	440(W) X 357(D) X 66(H)mm
重量	
	約6.5kg
MACアドレス登録数	
	8,000個 (最大)
メモリー容量	
拡張モジュール未装着時	8MByte
適用規格	
EMI規格	VCCIクラスA
サポートするMIB	
MIB II (RFC 1213)	
イーサネットMIB (RFC 1643)	
ブリッジMIB (RFC 1493)	
インターフェース拡張グループMIB (RFC 1573)	
プライベートMIB	